

自然と共生する“ものづくり”



写真左から、秋草 直之(代表取締役社長)、大瀧 達彦(専務取締役 環境担当)

富士通では、創業以来の「自然と共生する“ものづくり”」を環境経営の原点として、歴代の経営者や従業員に受け継がれ、環境保全や植林活動などに積極的に取り組んでおります。

新しい時代に向けて「地球環境重視」をコーポレートカルチャーとして、さらに全従業員へわかりやすく浸透させるため、21世紀の環境経営のコンセプト「グリーンライフ21 - すべてをグリーンに - 」を策定しました。これは、「Green Earth - 地球規模の環境活動」、「Green Products - 環境に貢献する製品開発」、「Green Factories - ゼロエミッション工場の実現」、「Green Solutions - 環境ソリューションの提供」および「Green Management - 環境経営の基盤づくりと情報の発信・開示」の5つの「Green」から構成されています。

このコンセプトは、製品の研究・開発からリサイクル・廃棄に至る事業活動の各段階での地球環境保全への取り組みが盛り込まれています。

1999年度は、1998年度に引き続き、環境マネジメントシステム(ISO14001)、製品リサイクル対策、工場廃棄物減量化対策、化学物質の排出削減および省エネルギー対策ともに目標を達成いたしました。また、グローバルな環境対策を取り込んだ厳しい社内規格に合格したグリーン製品については、141機種の開発を完了し、お客さまへご提供させていただいております。さらに、1999年3月期から導入いたしました環境会計については、環境保全に係わる費用と効果だけでなく、環境負荷改善指標についても明らかにしました。これらは、引き続き経営上の判断指標などに活用してまいります。

本報告書は、富士通の環境保全活動に関する1999年度の取り組み内容およびその成果を実績データを主体としてまとめております。また、環境会計に加えて、環境パフォーマンス情報などの掲載内容についても、信頼性および透明性を確保するため、「第三者意見書」の範囲を拡大して取得いたしました。

今後とも、富士通は、循環型経済社会の実現に向けてのトップランナーを目指して、さらに環境保全活動をレベルアップするとともに、環境報告書やインターネットを通じて情報開示していく所存ですので、富士通の企業姿勢をご理解の上、忌憚のないご意見、ご指摘をいただければ幸いです。

2000年6月

富士通株式会社 代表取締役社長

